



東河地区 まちづくり計画

平成 21 年 1 月

東河地区まちづくり委員会



1. 序章

②人口・世帯数

本地区の世帯数は平成 12 年の 425 世帯から平成 20 年の 513 世帯へと、人口は平成 12 年の 1,496 人から平成 20 年の 1,652 人へと増加しています。旧和田山町の他地区と比較すると世帯数・人口ともに増加しているのは東河地区のみです。

和田山町の世帯数・人口・老年人口の推移

地区	H12			H17			H20		増減(H12→H20)	
	世帯数	人口	老年人口	世帯数	人口	老年人口	世帯数	人口	世帯数	人口
東河地区	425	1,496	349	494	1,674	412	513	1,652	88	156
和田山地区	1,795	5,488	-	1,874	5,463	-	1,957	5,335	162	△ 153
竹田地区	1,055	3,442	-	1,091	3,388	-	1,194	3,419	139	△ 23
系井地区	997	3,345	-	1,004	3,261	-	1,031	3,156	34	△ 189
大蔵地区	1,190	3,658	-	1,184	3,502	-	1,194	3,424	4	△ 234

※老年人口は和田山町の老年人口割合より算出した値であり、実際の数値ではありません。

なお、平成 20 年における和田山町の老年人口はまだ未公開であったため、老年人口は算出していません。

資料:市民課住民基本台帳

③交通

交通機関については、地区内に JR はとっておらず、また、主要交通機関である路線バスの本数が減少しています。そのため、地区住民は主に自家用車を利用していますが、高齢者などは交通弱者となっています。

〈参考〉バス時刻表(停留所:中村)

平成 20 年 4 月 1 日現在

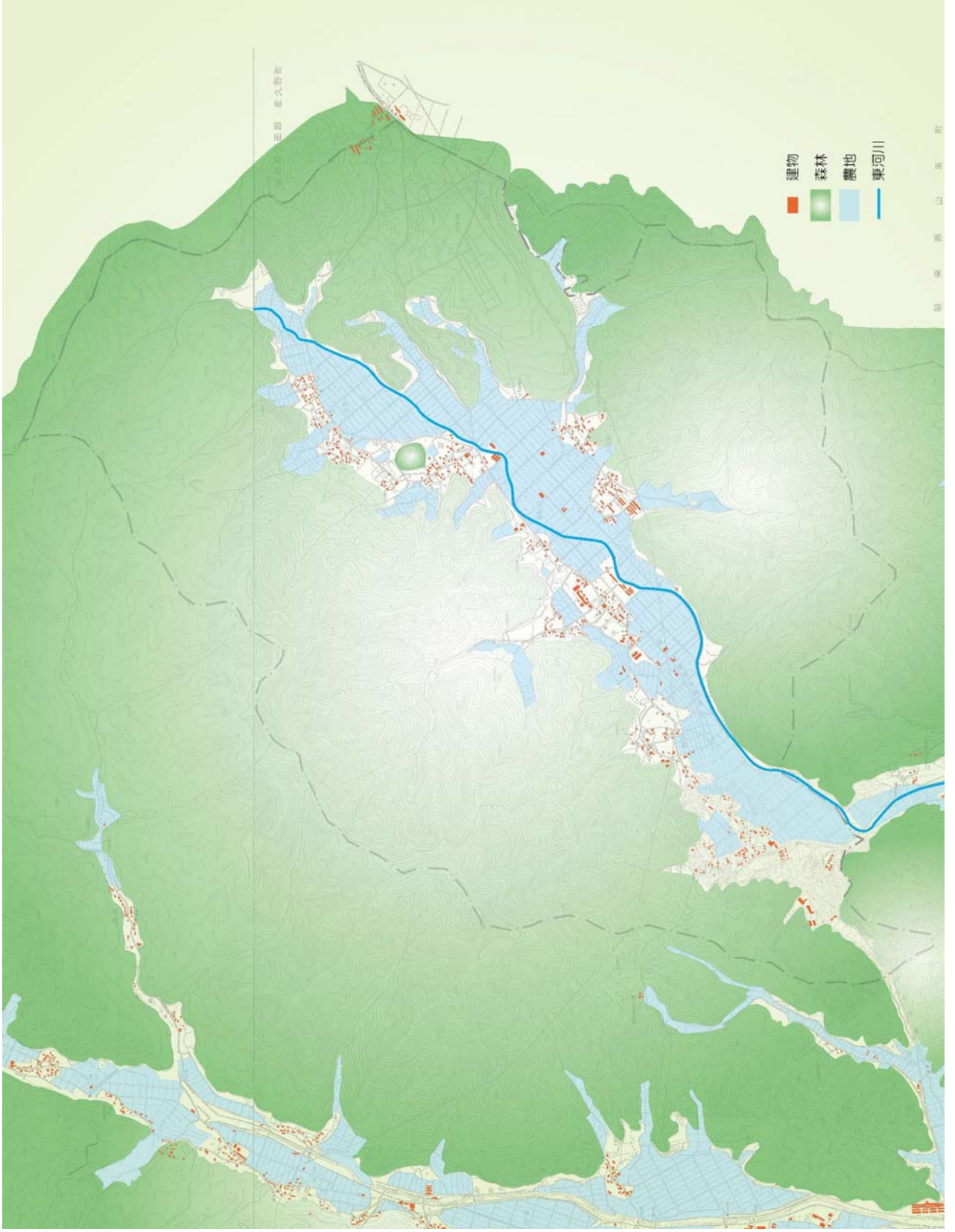
行先:和田山駅方面行

	平日	土曜日	日・祝日
5 時			
6 時			
7 時	20	20	20
8 時			
9 時	28	28	28
10 時			
11 時			
12 時	24	24	24
13 時			
14 時			
15 時	12		
16 時			
17 時	01	01	01
18 時			
19 時			
20 時			
21 時			

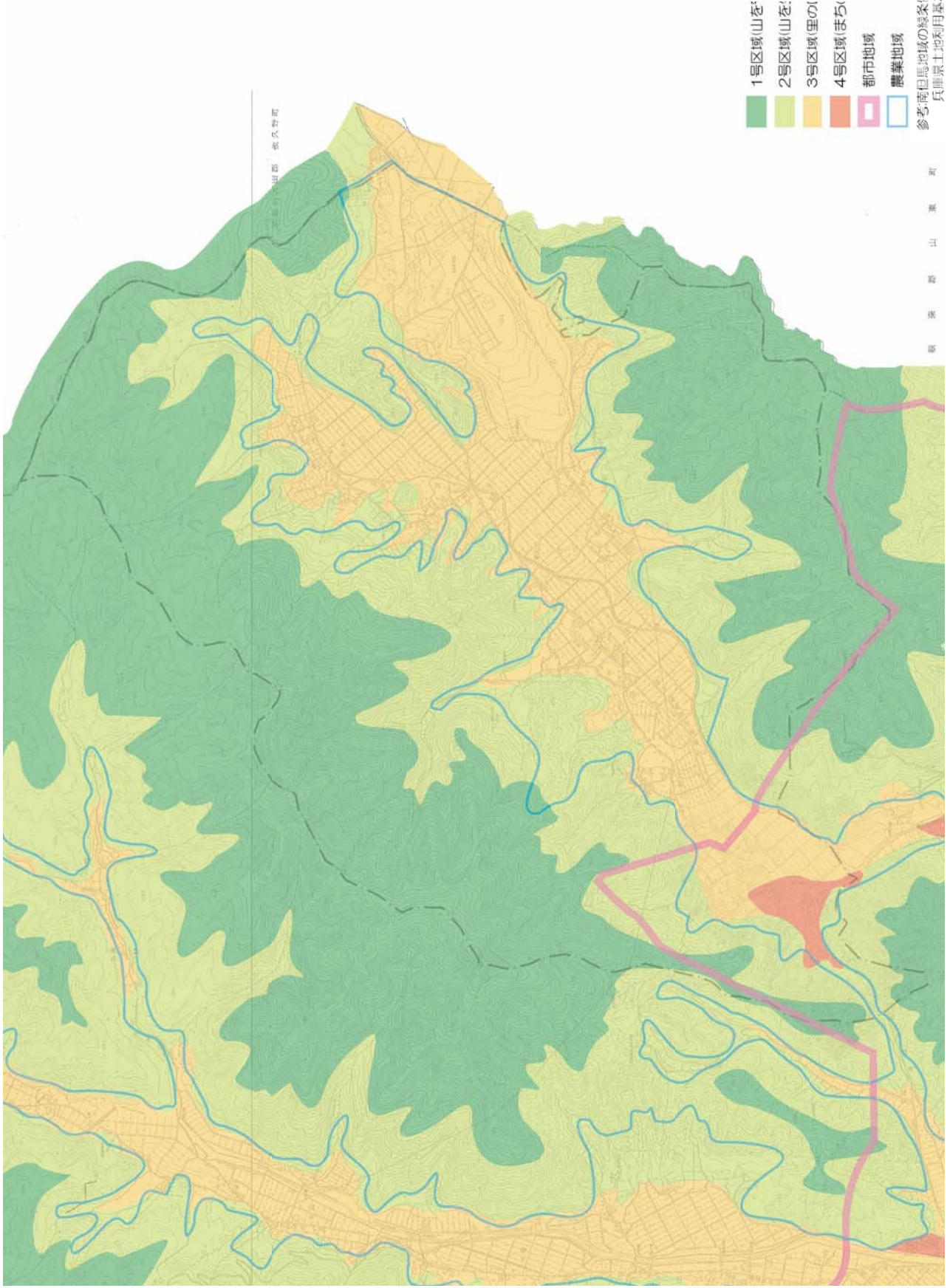
行先:白井行

	平日	土曜日	日・祝日
5 時			
6 時			
7 時			
8 時			
9 時			
10 時			
11 時			
12 時	11	11	11
13 時			
14 時	59		
15 時			
16 時	45	45	45
17 時			
18 時			
19 時			
20 時			
21 時			

④ 土地利用現況図

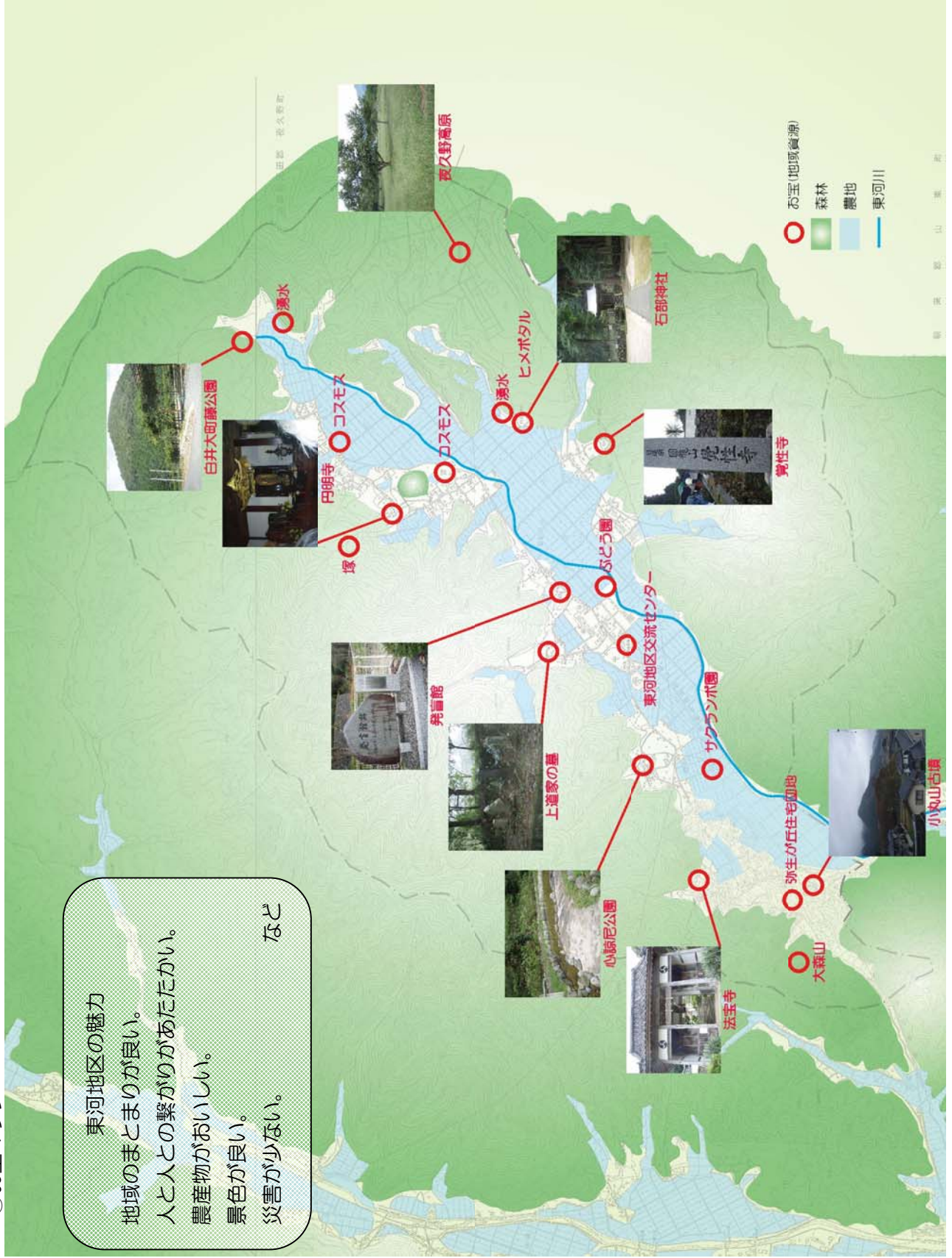


⑤ 現況法規制図



◎お宝マップ

東河地区の魅力
 地域のまとまりが良い。
 人と人の繋がりがあたたかい。
 農産物がおいしい。
 景色が良い。
 災害が少ない。
 など



⑦まちづくり活動

本地区では現在さまざまなまちづくり活動が行われていますが、今後のまちづくり活動においても、これらの活動を継続していきます。

【現在実施しているまちづくり活動】

●東河地区協議会

ウル東河ワクワクツアーの実施(交流活動)

通学路防犯灯の管理(防犯活動)

総会

●スポーツクラブ活動

総会

春のホッホウォーキング(交流活動)

春のグランドゴルフ大会(交流活動)

どろんこドッチボール大会(交流活動)

秋のグランドゴルフ大会(交流活動)

秋のホッホウォーキング大会(交流活動)

新春卓球打ち初め会(交流活動)

●東河地区文化・体育活動

東河地区親善ソフトボール大会(交流活動)

東河地区大運動会(交流活動)

東河地区文化祭(交流活動)

公民館運営委員会

●環境美化活動

但馬 10 万人クリーン作戦への参加(環境美化活動)

ミニクリーン作戦(19 年度)(環境美化活動)

県道沿い草刈事業(18・19 年度)(環境美化活動)

その他、分別啓蒙ポスターの配布(環境美化活動)

不法投棄防止鳥居の作成(18 年度)(環境美化活動)

犬の糞の処理看板作成(18 年度)(環境美化活動)

年間活動計画

月日	内容	場所	主催
2月	東河地区協議会総会	東河地区公民館	協議会
3月	東河地区公民館運営委員会	東河地区公民館	公民館
4月	スポーツクラブ 21 とが総会	東河小学校	スポ 21
	東河地区区長会	どうやまの里	区長会
	環境美化実践会 小委員会	どうやまの里	保健
5月	「どうやまの里」運営委員会	東河地区公民館	どうやま
	東河地区環境美化実践会総会		保健
6月	クリーン作戦	朝来市内	保健
	消防団操法大会	糸井小学校	消防団
	地区区長会	どうやまの里	区長会
	東河財産区議会	東河地区公民館	財産区
7月	どろんこドッチボール大会	東河地区内	スポ 21
	河川愛護、県道草刈	東河地区内	保健
8月	ソフトボール大会	東河小学校	公民館
9月	東河地区運動会	東河小学校	公民館
10月	地区区長会	どうやまの里	区長会
11月	地区別懇談会	東河地区公民館	区長会
	夜間訓練(11/9)	駅北	消防団
	東河地区研修旅行	京都府美山町	協議会
	地区文化祭	東河地区公民館	公民館
12月	消防団年末特別警戒		消防団

⑧課題

地区の現状把握や平成 19 年度に行ったワークショップ、聞き取り調査において、東河地区の課題・要望を抽出しました。

《景観・環境について》

- ・景観保全
- ・大町公園に続く道を花街道にしたい。
- ・オールシーズン藤棚の場所を楽しめるようにしたい。
- ・東河川は、昔はきれいだった。

《地区内交流について》

- ・高齢化が進み、子どもが少なくなった。
- ・高齢者のみの世帯が増えている。
- ・「どうやまの里」の維持管理を今後どうするか。
- ・スーパーなど近くに買い物するお店がなく、高齢者などは大変である。
- ・公共の交通機関(バス)が少ない。利用者も少ない。
- ・医療機関が遠い。
- ・弥生が丘の人が利用できる貸農園が欲しい。
- ・昔の行事(新年会など)が少なくなっている。
- ・住民が東河地区の歴史を知らない。

《農業・夜久野高原について》

- ・区によっては農家の後継者がいない。
- ・空き農地があり、荒れ放題である。
- ・営農組合員が高齢化している
- ・農業は赤字である。
- ・専業農家でも生活できていた。
- ・各家庭で自給自足ができていた。
- ・夜久野高原を利用した都市との交流を行いたい。
- ・昔は、夜久野高原は野原だったので、自由に遊べた。
- ・夜久野高原にある市の土地は昔、ひまわりを植えていたので、観光客がたくさん来ていた。

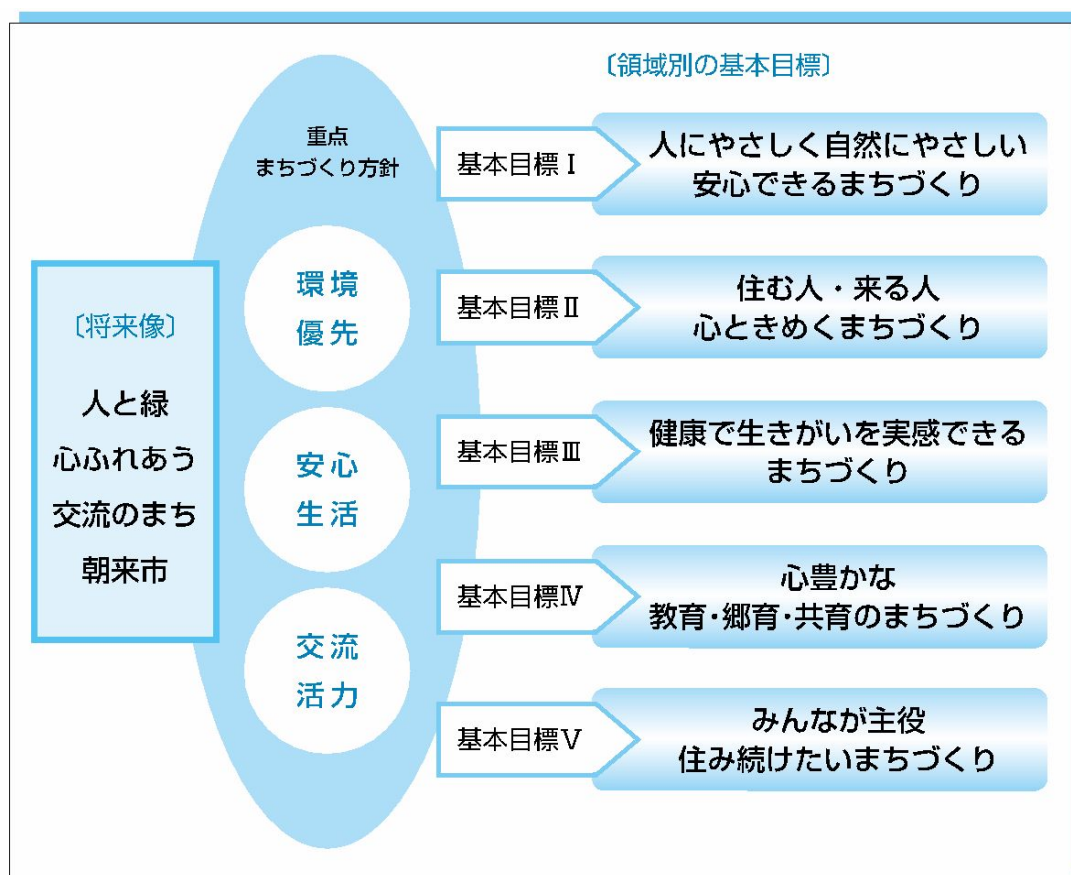
《東河地区全体について》

- ・高齢者が集う場所がない。
- ・高齢者が元気で生きがいを持てるまちにしたい。
- ・地区住民が生きがいを持って生活できる地区にしたい。
- ・道路の整備をして欲しい。
- ・東河川の幅員が狭くなっている。
- ・災害に強い地区にしたい。

2. 東河地区の将来像

2.東河地区の将来像

本地区が位置する朝来市は、「第1次朝来市総合計画」の中で、まちづくりの基本理念を「自考・自行、共助・共創のまちづくり(自ら考え、自ら行動し、共に助け合い、共に創る)」、将来像を「人と緑 心ふれあう 交流のまち 朝来市 ～元気あふれる 兵庫中央拠点都市～」とし、まちづくりを推進しています。



出典:第1次朝来市総合計画

朝来市が掲げているまちづくりの基本目標を分野別に分類すると以下のようになります。

基本目標	分野
人にやさしく自然にやさしい安心できるまちづくり	自然環境・生活環境・防災
住む人・来る人心ときめくまちづくり	土地利用・交通網・農林業・商工業・観光
健康で生きがいを実感できるまちづくり	健康・育児・福祉
心豊かな教育・郷育・共育のまちづくり	教育・文化・交流
みんなが主役住み続けたいまちづくり	市民意識・市民参画・行政機能

本地区では「第1次朝来市総合計画」を本計画の上位計画とし、さらに、地域住民の意向を反映させた本地区の将来像を設定します。

本地区は、夜久野高原や農地、里山など自然が豊かにあります。そして、多くの住民が東河地区の課題・要望を解決・実現するために、この豊かな自然を活用したいと考えています。そこで、「**自然の恵みを活かして 笑顔あふれるまちへ**」をまちづくりの目標(合い言葉)とし、地域住民の手によるまちづくりを進めていきます。

また、まちづくりの基本方針として、『**花いっぱい**の里・花街道』『**この自然活かして東河の「環」をつなぐ**』『**土で生き!人が生き!!地域も生きる東河の里**』『**あんしんのふるさとづくり**』の4つを定めました。

これにより、地域内の交流を活発にするとともに、地域外との交流も促進し、笑顔と活気があふれる東河地区をめざします。

～この自然活かして東河の「環」をつなぐ～

東河地区の特徴である自然を活かして、高齢者や弥生が丘団地の住民との交流機会をつくり、まちづくりがこれからも続いていけるように人と人の「環」づくりをめざします。

～花いっぱい

地区内をとる道路沿いに四季折々の花を植え、地区住民や訪れた人が笑顔になるまちをめざします。



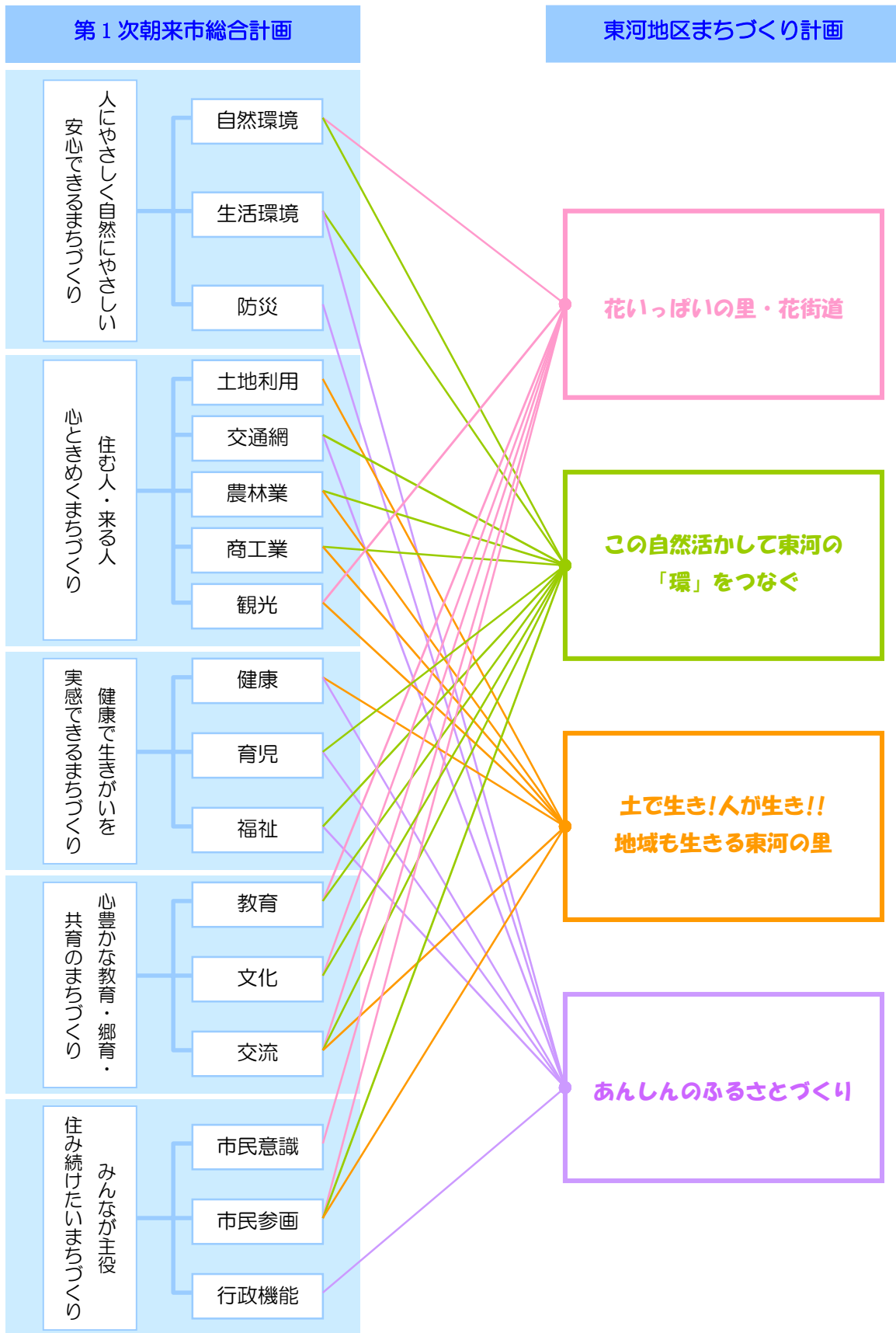
～あんしんのふるさとづくり～

地区住民が生き生きと安心して生活できるようなふるさとづくりをめざします。

～土で生き!人が生き!!地域も生きる東河の里～

夜久野高原を中心に、自然や農業を活かして地区住民や都市住民との交流促進をめざします。

「第1次朝来市総合計画」と「東河地区まちづくり計画」は以下の様に対応しています。



対応する基本方針	課題・要望
<p>花いっぱいの里・花街道</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 景観保全 ・ 大町公園に続く道を花街道にしたい。 ・ オールシーズン藤棚の場所を楽しめるようにしたい。 ・ 東河川は、昔はきれいだった。
<p>この自然活かして 東河の「環」をつなぐ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢化が進み、子どもが少なくなった。 ・ 高齢者のみの世帯が増えている。 ・ 「どうやまの里」の維持管理を今後どうするか。 ・ スーパーなど近くに買い物するお店がなく、高齢者などは大変である。 ・ 公共の交通機関(バス)が少ない。利用者も少ない。 ・ 医療機関が遠い。 ・ 弥生が丘の人が利用できる貸農園が欲しい。 ・ 昔の行事(新年会など)が少なくなっている。 ・ 住民が東河地区の歴史を知らない。
<p>土で生き!人が生き!! 地域も生きる東河の里</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区によっては農家の後継者がいない。 ・ 空き農地があり、荒れ放題である。 ・ 営農組合員が高齢化している ・ 農業は赤字である。 ・ 専業農家でも生活できていた。 ・ 各家庭で自給自足ができていた。 ・ 夜久野高原を利用した都市との交流を行いたい。 ・ 昔は、夜久野高原は野原だったので、自由に遊べた。 ・ 夜久野高原にある市の土地は昔、ひまわりを植えていたので、観光客がたくさん来ていた。
<p>あんしんのふるさとづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者が集う場所がない。 ・ 高齢者が元気で生きがいを持てるまちにしたい。 ・ 地区住民が生きがいを持って生活できる地区にしたい。 ・ 道路の整備をして欲しい。 ・ 東河川の幅員が狭くなっている。 ・ 災害に強い地区にしたい。 ・ 東河地区交流センター機能の強化

3. 土地利用構想

3.土地利用構想

(1)土地利用構想

地域の現状をふまえ、用途区域を定めた土地利用計画を策定し、地区内での適正な開発および建築の誘導と計画性のある集落形成を図ります。

今後は、定めた用途区域にふさわしい建築物用途の設定を行う必要があります。また、経済情勢の変化や公共事業などの社会資本整備、さらには私的な必然性にもとづく要請により、周辺環境が変化することも想定されることから、概ね5年を目途として変更できるものとしします。

■用途区域の設定

里山保全区域(森林区域)

本地区の貴重な自然環境として、地域住民との関わりの中で保全されてきた環境と景観を保全・活用する区域とします。

里山保全区域では、ヒメボタルの生息環境となっている場所もあるため、今後もヒメボタルの良好な生息環境を保全します。

また、里山を活用した交流機会の創出を図ります。

農業区域

本地区の中央を流れる東河川に沿って広がる農地は、本地区の景観を形成しているだけでなく、本地区の主な産業となっています。

この農地を本地区の農業生産基盤として維持し、新たな交流の場とすることで、営農環境の活性化を図り、大規模な土地利用の転用や耕作放棄地となることを避けるようにします。

集落・交流区域(集落区域)

現在ある集落や公共施設などを中心に、地区内交流を行う区域とします。乗合バスの運行や高齢者と子どもの交流機会の創出など、将来の地区の活性化につなげます。

交流区域(特定区域)

夜久野高原や大町公園などでは、豊かな自然環境を保全しながら、農業を中心とした地区内外の交流機会を創出する区域として、保全・活用します。

また、大町公園では、現在の景観を保全しながら、さらにオールシーズン楽しめ、多くの観光客が訪れる区域として、保全・活用します。

交流施設の計画や誘致を行う際は、夜久野高原や大町公園などの景観を阻害することなく、計画的な景観形成を図ります。

東河川保全区域(保全区域)

本地区を流れる東河川は、良好な水辺空間を創出しています。

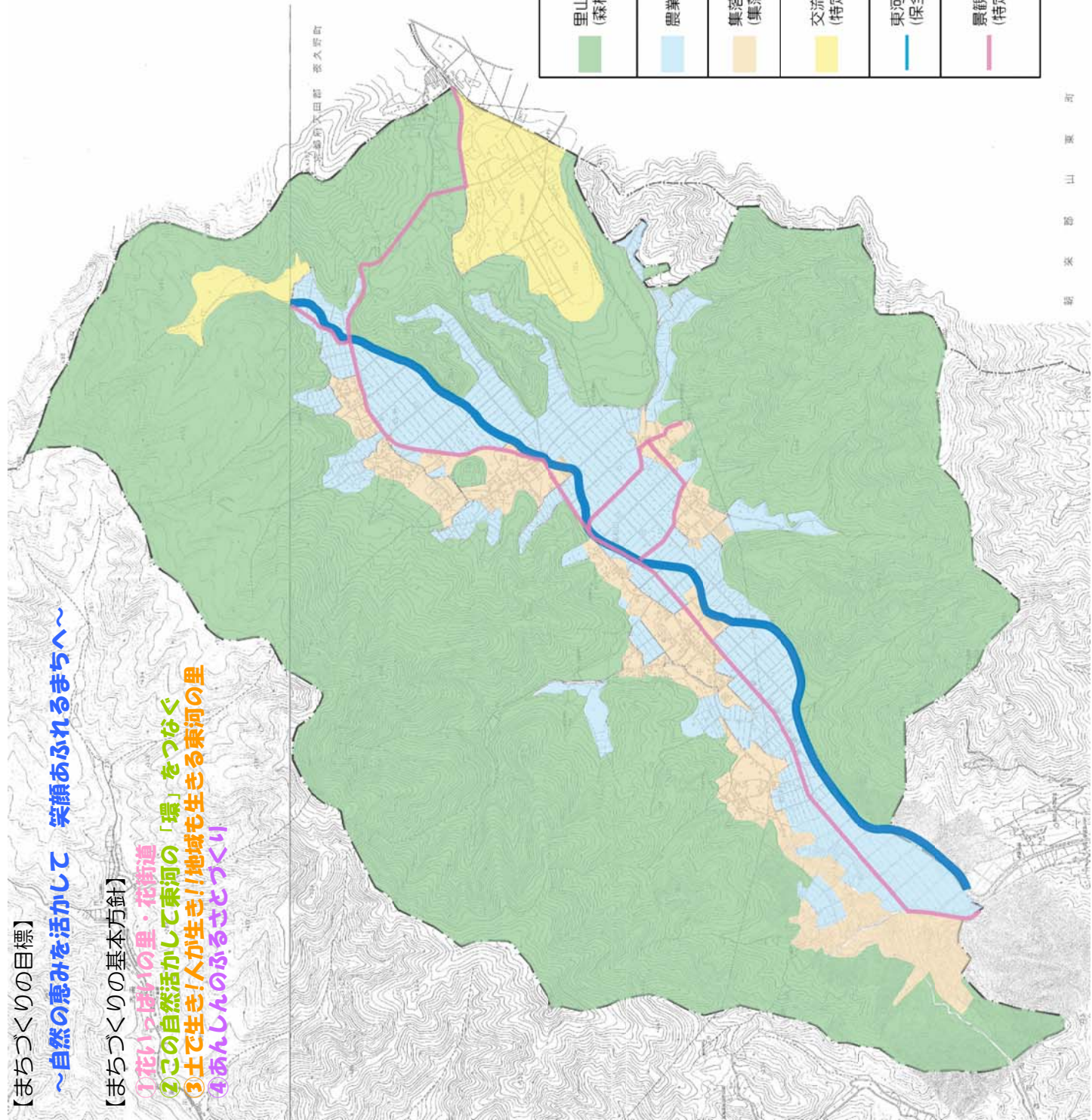
この東河川を地区住民やボランティアの手などで、保全し、良好な水辺空間を継承していきます。

景観向上区域(特定区域)

本地区を横断する道路や、地区の宝もの(地域資源)へ続く道路に四季折々の花などを植え、花があふれる地区景観を形成する区域とします。

土地利用計画図

【まちづくりの目標】
 ～自然の恵みを活かして 笑顔あふれるまちへ～
 【まちづくりの基本方針】
 ①花いっぱい緑の里・花街道
 ②この自然活かして栗河の「環」をつなぐ
 ③土で生き！人が生き！！地域も生きる栗河の里
 ④あんしんのふるさとづくり



<p>里山保全区域 (森林区域)</p>	<p>環境と景観を保全・活用する区域。 ヒメボタルの良好な生息環境を保全し、里山を活用した交流機会の創出を図ります。</p>
<p>農業区域</p>	<p>農地を本地区の農業生産基盤として維持し、新たな交流の場とすることで、営農環境の活性化を図ります。</p>
<p>集落・交流区域 (集落区域)</p>	<p>現在ある集落や公共施設などを中心に、地区内交流を行う区域とし、将来の地区の活性化につなげます。</p>
<p>交流区域 (特定区域)</p>	<p>豊かな自然環境を保全しながら、農業を中心とした地区内外の交流機会を創出する区域として、保全・活用します。</p>
<p>東河川保全区域 (保全区域)</p>	<p>東河川を地区住民やボランティアの手などで、保全し、良好な水辺空間を継承していきます。</p>
<p>景観向上区域 (特定区域)</p>	<p>本地区を横断する道路や、地区の宝もの(地域資源)へ続く道路に四季折々の花などを植え、花があふれる地区景観を形成する区域とします。</p>

(2) 道路構想図

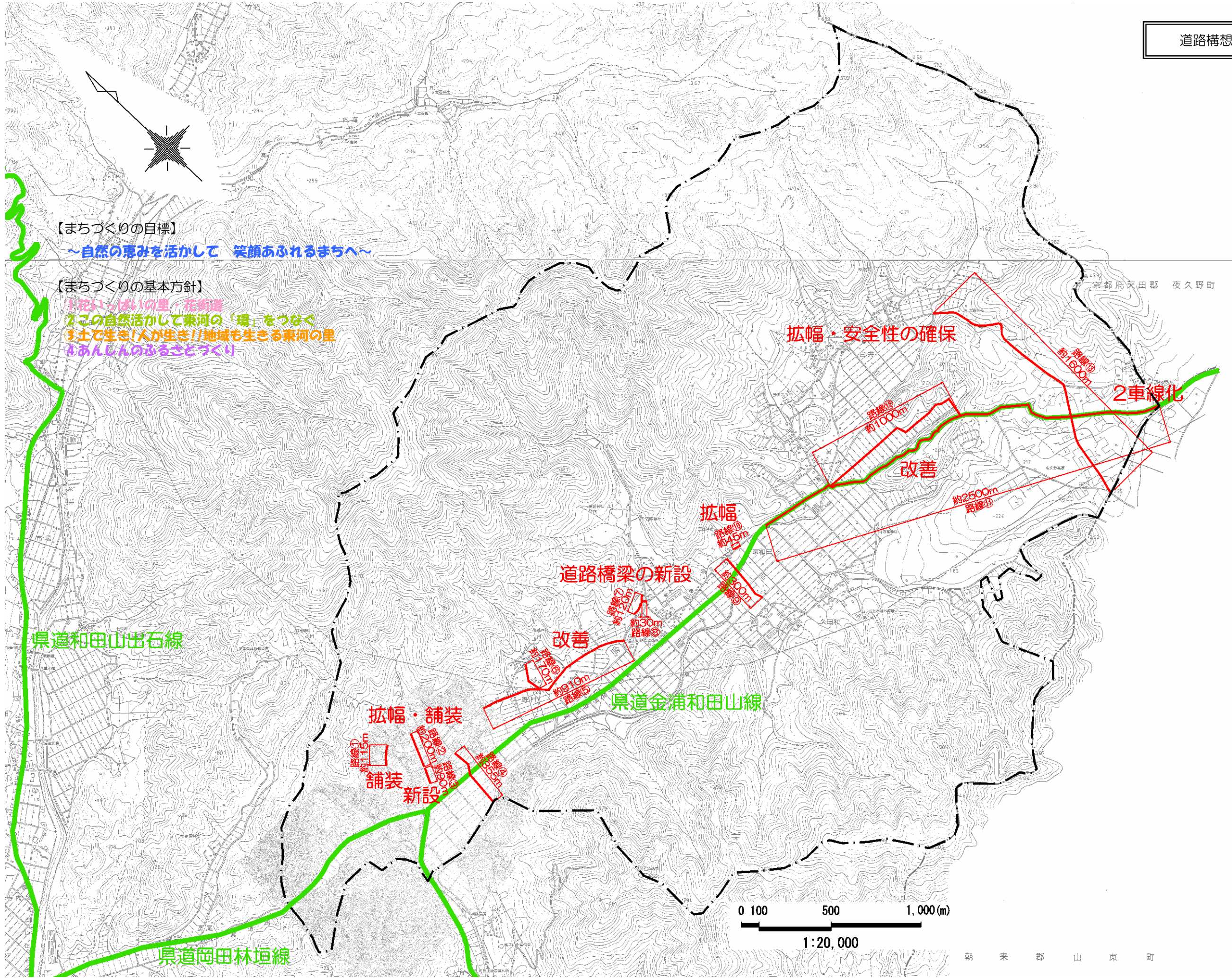
本地区を走る道路の多くは幅が狭く、近年交通量が増加し、車両のすれ違いなどについて危険な状況となっています。

また、今後はまちづくりを進めていく中で、地区外との交流が活発に行われると予想されます。交流を行う際には道路の利用が多くなるため、アンケートや聞き取り調査で道路の改善などが必要な場所を調査し、道路構想図として整理しました。

この道路構想図をもとに、地区内の道路の整備を推進することとします。

道路整備要望

路線	延長(m)
路線①	約 115
路線②	約 200
路線③	約 90
路線④	約 355
路線⑤	約 910
路線⑥	約 170
路線⑦	約 120
路線⑧	約 30
路線⑨	約 45
路線⑩	約 300
路線⑪	約 2,500
路線⑫	約 1,000
路線⑬	約 1,600



【まちづくりの目標】

～自然の恵みを活かして 笑顔あふれるまちへ～

【まちづくりの基本方針】

- 1 花いっぱいの里、花街道
- 2 この自然活かして東河の「環」をつなぐ
- 3 土で生き！人が生き！地域も生きる東河の里
- 4 あんしんのふるさとづくり

京都府天田郡 夜久野町

4. まちづくりの基本方針

4.まちづくりの基本方針

まちづくりの目標である「**自然の恵みを活かして 笑顔あふれるまちへ**」を実現するために必要となる、まちづくり基本方針について整理します。

①花いっぱいの里・花街道

●内容

本地区は周辺を山に囲まれ、山すそには農地が広がる緑豊かな景観を有しています。この緑豊かな景観を保全し、さらに地区ぐるみで植栽や清掃などの景観向上活動を行うことで、まちづくり活動参加へのきっかけをつくります。

まちづくり基本方針①『**花いっぱいの里・花街道**』では、地区内をとる道路沿いに四季折々の花を植え、地区住民や訪れた人が笑顔になるまちをめざします。

●アクションプログラム(活動計画)

- ・地区内をとる道路沿いに四季折々の花を植え、地区景観のさらなる向上を図ります。
- ・大町公園は年間約 5 万人の観光客が訪れます。しかし、藤の見頃は 4 月下旬から 5 月中旬までの短い期間です。そこで、オールシーズン大町公園を楽しめるように、植栽活動やイベントを開催し、地区住民の生きがいづくりと観光客の誘致に努めます。
- ・東河川の清掃活動を行います。清掃活動には地区住民だけではなく、地区外ボランティアの参画を促し、活動の活性化を図ります。
- ・地区内に必要なみちづくり(道路整備計画)を行い、景観向上だけではなく、安全性の向上を図ります。

②この自然活かして東河の「環」をつなぐ

●内容

本地区には、「弥生が丘」という新興住宅地があり、昔からの地区住民との交流機会が少ないことが課題となっています。また、農業従事者の高齢化や担い手不足などにより、農業ばなれが進行し、遊休農地が増加しています。そのため、本地区らしい農村の景観が損なわれつつあります。

まちづくり基本方針②『**この自然活かして東河の「環」をつなぐ**』では、東河地区の特徴である自然を活かして、高齢者や弥生が丘団地の住民との交流機会をつくり、まちづくりがこれからも続いていけるように人と人の「環」づくりをめざします。

●アクションプログラム(活動計画)

- ・農地を所有していない地区住民が本地区の遊休農地を利用できるように市民農園などの利用を促進します。また、市民農園の中で、高齢者が農作業を教える機会を設け、高齢者と地区住民との交流機会の創出や生きがいに努めます。
- ・また、農機具の共同利用を促進し、農業の活性化を図ることで、農家の金銭的な負担を減らし、遊休農地の減少をめざします。
- ・本地区をとる公共交通機関はバスしかなく、かつその本数も少ないです。そのため、自家用車を持っていない地区住民は交通弱者^{※1}となっています。そこで、地区内の有志を集め、乗合バスを運行することをめざします。
- ・本地区には豊かな自然とともに歴史的資源も豊富に存在します。そこで、本地区の歴史にまつわる話などを子どもたちへ引き継ぐために、歴史パンフレットの作成や歴史・方言講座を開き、若い世代や子どもたちに本地区の魅力を感じてもらいます。
- ・本地区は年々、少子高齢化が進行しています。また、高齢者と子どもたちが交流する機会も減少しています。そこで、高齢者と小学生が交流する機会を設け、地区内交流の活発化を図ります。
- ・また、地区内交流や福祉などの拠点として「どうやまの里」の活用を図ります。

※1…ここでは高齢者など、生活を営むことにおいて、移動に不便を感じる者をいう。

③土で生き!人が生き!!地域も生きる東河の里

●内容

本地区にある夜久野高原はおいしい農産物が収穫できます。しかし、現状としては、本地区内の農業も高齢化や後継者不足などにより、衰退しつつあります。そこで、夜久野高原と農業を組み合わせ、新しい産業の創出を図ります。

まちづくり基本方針③『**土で生き!人が生き!!地域も生きる東河の里**』では、夜久野高原を中心に、自然や農業を活かして地区住民や都市住民との交流促進をめざします。

●アクションプログラム(活動計画)

- ・夜久野高原に市民農園を設け、地区住民や都市住民が利用できるようにします。また、市民農園の中で、高齢者が農作業を教える機会を設け、高齢者と地区・都市住民との交流機会の創出や生きがいに努めます。
- ・夜久野高原に、朝市や直売所などを設け、地区住民だけではなく観光客も本地区の農産物を味わえる機会を設けます。また、長期的には夜久野高原の農産物を利用した加工品づくりなどを検討します。
- ・滞在型市民農園を設け、夜久野高原での滞在経験をもとに、本地区への移住促進を図ります。
- ・ひまわりなどを植栽し、夜久野高原の景観保全・向上に努めます。植栽活動は観光客などと一緒にすることで、地区住民と都市住民との交流を促進します。

④あんしんのふるさとづくり

●内容

アンケート調査の中で、「東河地区に今後も住みたいですか」という問いに対して、「住みたい」と回答した人が117人(61.6%)もいました。この現状をこれからも維持し、さらに向上するために、生活環境や教育、福祉、防災など総合的な面から本地区の環境を向上させます。

まちづくり基本方針④『**あんしんのふるさとづくり**』では、地区住民がこれからもずっと安心して生活できる環境づくりをめざします。

●アクションプログラム(活動計画)

- ・地区住民が健康で生きがいを持って生活できるように、住民活動を活発にするとともに、それらの内容を広くPRし、興味のあるものに自由に参加できるきっかけづくりを行います。
- ・本地区には幅員の狭い道路や東河川、舗装のされていない道路、土砂崩れを起こしている山林など災害や事故が起こる可能性のある危険な場所があります。これらの危険な場所を危険箇所マップの作成などにより把握するとともに、道路改修や河川改修などの整備を推進します。
- ・東河地区交流センター機能を強化するため、各種事業に必要な備品の購入を行うとともに、自転車置き場などの施設整備を推進します。

5. まちづくりのシンボルプロジェクト

5.まちづくりのシンボルプロジェクト

「**自然の恵みを活かして 笑顔あふれるまちへ**」を実現するために、次のシンボルプロジェクトを推進することとします。

【シンボルプロジェクト】

- 花街道づくり
- 東河地区歴史マップづくり
- どうやまの里の利活用
- 夜久野高原の利活用
- 危険箇所マップづくり

○花街道づくり

- ・本地区の道路において、植栽を行いたい場所や植栽の種類などをワークショップを行うなどし、地区住民で検討します。
- ・植栽の実施については、地区外住民も参加できるようなイベント開催を視野に入れ検討します。

○東河地区歴史マップづくり

- ・本地区の歴史や歴史資源などを示した歴史マップを作成します。歴史マップの内容については、ワークショップを行うなどし、地区住民で検討します。
- ・作成した歴史マップについては、地区住民を対象とした歴史講座や観光客が多く訪れる大町公園へ設置するなどの活用をします。

6. 計画実現のために

6.計画実現のために

(1) スケジュール

まちづくり計画を実行するために、今後は活動分野によって部会に分かれ、その中で具体的な活動内容を検討していきます。ここでは、今後、まちづくり活動を実践するにあたって、活動指針となるようにアクションプログラムのスケジュール(案)を整理します。

①花いっぱいの里・花街道

アクションプログラム	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年～
道路沿いへの植栽	植栽する場所や種類を検討する。維持管理方法を検討する。	種や苗の助成を探す。種や苗を確保し、場所が決まったら、植栽を行う。	植栽場所の拡大を検討する。維持管理活動の継続。ボランティアを募集する。			
大町公園の活用		大町公園の活用方法を検討する。(オールシーズン楽しめるように)	検討した活用方法(植栽活動・イベントなど)を実践する。	実践した活動の反省をふまえ、今後実践したい活動内容を検討する。	実践活動。	

アクションプログラム	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年～
東河川などの清掃	草刈り活動を継続する。	→	植栽ボランティアとともに、河川清掃などのボランティアも募集し、清掃活動を行う。			→

②この自然活かして東河の「環」をつなぐ

アクションプログラム	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年～
市民農園の開設	遊休農地調査や農地所有者の意向調査を行い、市民農園・貸農園として利用できる農地があるか調査する。	行政などとも交えて、市民農園の開設について検討する。 先進地視察を行う。	市民農園開設に向けて農地所有者などと市民農園の方向性や管理方法などを検討する。	市民農園開設に向けて、整備内容などを検討する。 農作業講座の講師を募集する。	市民農園の整備開始。 市民農園利用者を募集する。	市民農園開設。 イベントなどを行う。
農園の貸し出し		貸農園の取り決めなどを検討する。	貸農園利用者を募集する。	利用者の継続募集する。 必要に応じて、貸農園の取り決めなどを修正する。		→

アクションプログラム	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年～
農機具の共同利用	農機具の共同利用を行いたい農家を募集する。	農機具共同利用の取り決めなどを検討し、共同利用を開始する。				→
乗合バス(移送サービス)の運行		乗合バスの必要性について意向調査などを行う。	乗合バスの運営方法などを検討する。	→	→	乗合バスの試運転、本格運行。
歴史パンフレット作成 歴史・方言講座開催	歴史や方言に詳しい人を募集し、パンフレットや講座の素案づくりを行う。	(まち歩き) →	パンフレットを作成し、地区住民や観光客が訪れる場所に置く。	歴史講座をイベントの中などで開催する。	歴史講座を受講した人が子どもたちに歴史を教える機会を設ける。(歴史案内人)	→
高齢者と小学生の交流(どうやまの里の有効活用の検討)	高齢者と小学生の交流方法を検討する。(祭りの活用・しめ縄づくり・もちつき・グランドゴルフ・手品・竹とんぼ・カブトムシ採りツアー)	学校を中心に、交流機会を設ける。			→	学校だけではなく、日常生活の中で交流機会が生まれるようになる。

③土で生き!人が生き!!地域も生きる東河の里

アクションプログラム	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年～
朝市や直売所の設置	参加意向のある農家を募集する。	参加する農家を中心に、出店場所や販売方法・内容などを検討する。(都市への販売も検討する。)	—	—	朝市・直売所の稼働。その中で、市民農園利用者募集など東河地区のPRを行う。	—
滞在型市民農園の開設		滞在型市民農園の利用意向について、地区外住民に意向調査を行う。	—	—	意向調査の結果を受け、滞在型市民農園の方向性などを検討する。	— 滞在型市民農園開設。
夜久野高原の景観保全・向上・開発	植栽する場所や種類を検討する。維持管理方法を検討する。開発の方向性や内容を検討する。	植栽イベントを行い、観光客と一緒に植栽を行う。	—			—

④あんしんのふるさとづくり

アクションプログラム	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年～
住民活動の活性化	東河地区まちづくり委員会の内容をかわら版で知らせる。	地区内で行われる活動やイベントについて情報発信する。(かわら版の継続発行やインターネットの活用を検討する。)				
みちづくり (道路整備計画)	アンケート調査により、道路改修・整備などの意向を調査する。	アンケートで道路改修・整備などの意向があった箇所を見て歩き、道路改修・整備の優先度を検討する。	優先度に応じて、道路改修・整備の申請を行政に提出する。			
環境整備	地区内の危険な箇所など調査する。(アンケート)	危険箇所などを地区住民が見て歩き、危険箇所マップを作成する。	危険箇所などについて、整備が必要な箇所などについては朝来市に整備希望を伝える。			

アクションプログラムと活動分野(部会)の対応表

基本方針	アクションプログラム	農業	環境・景観	交流	夜久野高原
花いつぱいの里・ 花街道	道路沿いへの植栽		◎		
	大町公園の活用		◎	○	
	東河川などの清掃		◎	○	
この自然活かして東河の「環」をつなぐ	市民農園の開設	◎		○	
	農園の貸し出し	◎			
	農機具の共同利用	◎			
	乗合バス(移送サービス)の運行			◎	
	歴史パンフレット作成 歴史・方言講座開催			◎	
	高齢者と小学生の交流 (どうやまの里の有効活用の検討)			◎	
土で生き！人が生き!! 地域も生きまわる東河の里	朝市や直売所の設置	◎		○	
	滞在型市民農園の開設	◎		◎	
	夜久野高原の景観保全・向上・開発	◎	◎	◎	◎
あんのの あんのの	住民活動の活性化		◎	◎	
	みちづくり(道路整備計画)		◎		
	環境整備		◎		

◎…主に関係のある分野

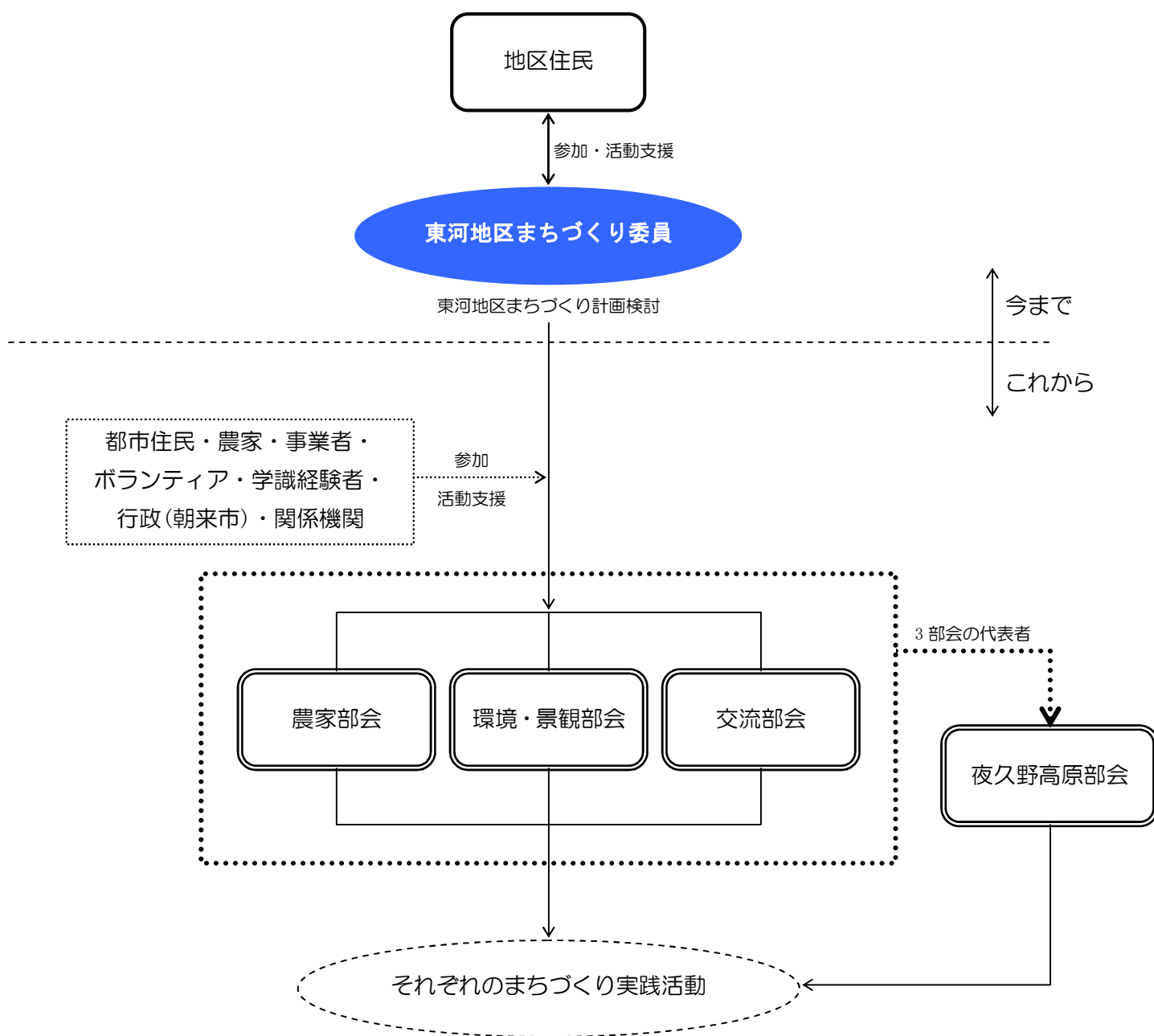
○…関係のある分野

3部会の代表者

(2) 推進体制

本計画のまちづくりの目標「**自然の恵みを活かして 笑顔あふれるまちへ**」は、本地区の課題・要望を解決・実現するために、この豊かな自然を活用し、地区住民だけではなく、本地区を訪れた人の笑顔であふれるまちをめざすものです。

この目標を達成するために、東河地区まちづくり委員会を中心に、行政や関係機関、農家、事業者などの各主体が連携しながら活動を進めていくことが必要となります。



7. 東河地区まちづくり計画 概要版

東河地区まちづくり計画とは(??)

東河地区をつくっている「農地・里山・歴史・夜久野高原」などの資源や人と人との関わりをこれからも、守り受け継ぐためには、地域住民が一丸となって、日々の営みのなかでまちづくり活動を行える環境を整えることが重要となります。

東河地区まちづくり計画は、本地区にあるさまざまな課題や要望を地域住民の手で解決・実現し、よりよいまちづくりを進めるための指針となるものです。

本計画は平成19年11月に設立した「東河地区まちづくり委員会」のメンバーを中心に、ワークショップやアンケート調査を行いながら、地域住民の意向を反映し、策定しました。

東河地区の現状と課題

●現状

人口:世帯数・人口ともに増加しています。

世帯数 425世帯(H12)→513世帯(H20) 人口 1,496人(H12)→1,652人(H20)

交通:地区内にJRはとっておらず、また、主要交通機関である路線バスの本数が減少しています。そのため、地区住民は主に自家用車を利用しています。

魅力:自然、農業、お寺などの歴史資源、夜久野高原、人と人との繋がりがあたたかい!など

活動:東河地区協議会、スポーツクラブ活動、東河地区文化・体育活動、環境美化活動が盛ん。

●課題

《景観・環境について》	《東河地区全体について》
<ul style="list-style-type: none"> ・景観保全 ・大町公園に続く道を花街道にしたい。 ・オールシーズン藤棚の場所を楽しめるようにしたい。 ・東河川は、昔はきれいだった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が集う場所がない。 ・高齢者が元気で生きがいを持てるまちにしたい。 ・地区住民が生きがいを持って生活できる地区にしたい。 ・道路の整備をして欲しい。 ・東河川の幅員が狭くなっている。 ・災害に強い地区にしたい。
《農業・夜久野高原について》	《地区内交流について》
<ul style="list-style-type: none"> ・区によっては農家の後継者がいない。 ・空き農地があり、荒れ放題である。 ・営農組合員が高齢化している ・農業は赤字である。 ・専業農家でも生活できていた。 ・各家庭で自給自足ができていた。 ・夜久野高原を利用した都市との交流を行いたい。 ・昔は、夜久野高原は野原だったので、自由に遊べた。 ・夜久野高原にある市の土地は昔、ひまわりを植えていたので、観光客がたくさん来ていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進み、子どもが少なくなった。 ・高齢者のみの世帯が増えている。 ・「どうやまの里」の維持管理を今後どうするか。 ・スーパーなど近くに買い物するお店がなく、高齢者などは大変である。 ・公共の交通機関(バス)が少ない。利用者も少ない。 ・医療機関が遠い。 ・弥生が丘の人が利用できる貸農園が欲しい。 ・昔の行事(新年会など)が少なくなっている。 ・住民が東河地区の歴史を知らない。

★東河地区の将来像★

まちづくりの目標(合い言葉): **自然の恵みを活かして 笑顔あふれるまちへ**

基本方針: ①花いっぱいの里・花街道 ②この自然活かして東河の「環」をつなぐ ③土で生き!人が生き!!地域も生きる東河の里 ④あんしんのふるさとづくり

～この自然活かして 東河の「環」をつなぐ～

自然を活かして、高齢者や弥生が丘団地の住民との交流機会をつくり、人と人の「環」づくりをめざします。

～花いっぱいの里・花街道～

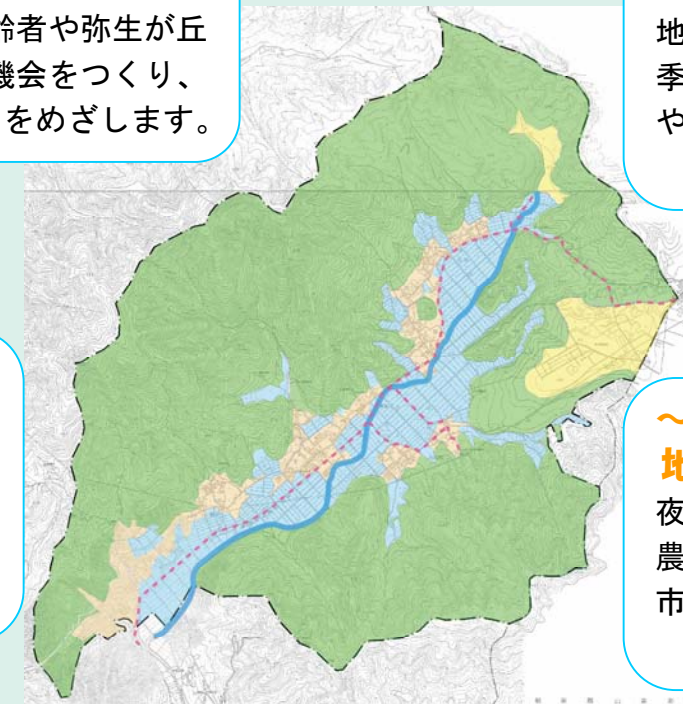
地区内をとる道路沿いに四季折々の花を植え、地区住民や訪れた人が笑顔になるまちをめざします。

～あんしんのふるさとづくり～

地区住民が生き活きと安心して生活できるようふるさとづくりをめざします。

～土で生き!人が生き!! 地域も生きる東河の里～

夜久野高原を中心に、自然や農業を活かして地区住民や都市住民との交流促進をめざします。



土地利用構想図

里山保全区域 (森林区域)	環境と景観を保全・活用する区域	交流区域 (特定区域)	農業を中心とした地区内外の交流を創出する区域
農業区域	農地を維持し、新たな交流の場とする区域	東河川保全区域 (保全区域)	良好な水辺空間を継承する区域
集落・交流区域 (集落区域)	集落や公共施設などを中心に、地区内交流を行う区域	景観向上区域 (特定区域)	花があふれる地区景観を形成する区域

シンボルプロジェクト

「自然の恵みを活かして 笑顔あふれるまちへ」を実現するために、シンボルプロジェクトを推進します。

- 花街道づくり……道路沿いに四季折々の花を植栽
- 東河地区歴史マップづくり……歴史や歴史資源などを示した歴史マップを作成
- どうやまの里の利活用……「どうやまの里」を地区住民が気軽に集まれるような場所として活用
- 夜久野高原の利活用……地区住民や関係機関と夜久野高原の利活用の検討
- 危険箇所マップづくり……まちあるきなどを行いながら、危険箇所を整理したマップを作成